

長期処理計画

この計画は、J E S C O 北九州 P C B 処理事業所において、P C B 廃棄物を期限内に確実に処理するため、長期的な処理の計画を定めるものである。

I 処理対象 P C B 廃棄物

1 北九州事業エリアの処理対象物

中国、四国、九州・沖縄地域（岡山以西 17 県）の全ての P C B 廃棄物が対象。

平成 30 年度以降の処理対象量の見込みは以下のとおり。なお、平成 30 年 3 月末までに既に処理施設に搬入された台数も含まれます。

- | | |
|-------------|----------|
| ① 大型変圧器 | 2 台 |
| ② 小型変圧器 | 6 台 |
| ③ コンデンサー | 1, 233 台 |
| ④ 安定器及び汚染物等 | 164 トン |

2 北九州事業エリア外の処理対象物

近畿、東海、南関東地域（14 都府県）の一部の P C B 廃棄物が対象。

平成 30 年度以降の処理対象量の見込みは以下のとおり。なお、平成 30 年 3 月末までに既に処理施設に搬入された台数も含まれます。

- | | |
|--------------------------|-------------|
| ① 車載変圧器（豊田事業エリア） | 4 台 |
| ② コンデンサー（東京事業エリア） | 767 台 |
| ③ 安定器及び汚染物等（大阪及び豊田事業エリア） | 約 2, 676 トン |

II 処理進捗状況及び処理計画

これまでの処理進捗状況と上記の処理対象台数を踏まえた年度ごとの処理計画を策定することにより、期限内の処理を確実に実施する。

1 処理進捗状況

北九州事業エリアの処理対象物については、平成 30 年 3 月末現在で変圧器 99.8%、コンデンサー 97.7%、安定器及び汚染物等 94.4% の処理が完了している。

北九州事業エリア外の処理対象物については、車載変圧器 95.9%、コンデンサー 88.9%、安定器及び汚染物等 35.0% の処理が完了している。

2 年度ごとの処理計画

変圧器・コンデンサーは平成30年度末まで、安定器及び汚染物等については平成33年度末までに処理を行う。

年度ごとの処理計画は別添1のとおり。

3 処理促進策

期限内に確実に処理を完了するため、以下の処理促進策を講じる。

①処理完了に向けた取組み

- ・自治体と協力連携して営業体制を構築し、定期的に進捗を確認。
- ・事業者への訪問を自治体と連携して迅速適切に対応。
- ・安定器について、保管場所での「仕分け」実施のため、事業者への周知徹底に継続して取り組み、処理対象量の適正化を図る。
- ・小型電気機器（3kg未満）の一部等について、真空加熱分離装置での処理実施。

②北九州事業エリア外からの円滑な搬入

- ・積極的な営業活動のため、近畿・東海エリア分室への営業課員の増員等、適正人員の配置。
- ・東京事業エリアのコンデンサーについて、当該保管事業者との計画的な搬入のための調整。

以上

北九州 P C B 処理事業所における年度ごとの処理計画

区分		(参考) 平成29年度 処理量の 実績	平成30年度以降の 処理量の見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
大型変圧器		34台	2台	2台			
小型変圧器		32台	6台	6台			
車載変圧器	豊田エリア	46台	4台	4台			
コンデンサー	北九州エリア	2,473台	1,233台	1,233台			
	東京エリア	2,326台	767台	767台			
安定器及び 汚染物等	北九州エリア	177 トン	164 トン	129 トン	35 トン		
	大阪・豊田エリア	549 トン	約2,676 トン	655 トン	855 トン	890 トン	276 トン

注：平成29年度処理実績：平成30年3月31日時点の中間処理完了ベース（マニフェスト単位：D票ベース）

注：安定器及び汚染物等の処理量の見込みには缶重量を含まない。各年度の処理量には、真空加熱分離装置での処理量を含む。

別添 2

平成30年度処理進捗管理表

(単位:変圧器・コンデンサーは台、安定器及び汚染物等はトン)

処理対象物		処理計画量	区分	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		第1四半期の進捗率(%)
変圧器	大型	2	実績	0		2		0		0		—
			計画量	0								
	小型	6	実績	1		5		0		0		100%(17%注)
			計画量	1								
	車載(豊田)	4	実績	4		0		0		0		100%(100%)
			計画量	4								
コンデンサー	北九州	1,233	実績	452	944		0		0		0	118%(47%)
	東京	767		492								
	全体	2,000	計画量	800		800		400		0		
安定器 及び 汚染物等	北九州	129	実績	31.0	176		0		0		0	88%(22%)
	大阪・豊田	655		145.0								
	全体	784	計画量	199		205		181		199		

注:()内の数字は年間進捗率を示す。

PCB 廃棄物の早期処理に係る JESCO の取組

○小型電気機器の真空加熱分離装置による無害化処理

これまで 3kg 以上の小型電気機器は真空加熱分離装置（VTR）で無害化処理しており、3kg 未満の小型電気機器はプラズマ溶融での無害化処理としていましたが、塩化ビニルで被覆されていない 3kg 未満の小型電気機器について真空加熱分離装置での無害化処理を行い、安定器及び汚染物等の早期処理に向けた取り組みを進めています。

前回監視会議(平成 30 年 1 月 25 日開催)において、ドラム缶 4 缶にそれぞれ 200kg 程度（ドラム缶の 8 割程度）の小型電気機器(3kg 未満)を入れて処理を行い、ケース、炭化物、銅・アルミなど全ての検体で卒業（無害化）を確認したことについて報告しました。

その際、小型電気機器から回収した PCB 含有回収油の性状を確認し、その回収液の脱塩素化分解反応による無害化処理についてのトリータビリティ試験等を実施し、SD 剤の投入量等考察する計画である旨併せて報告しましたが、その後の取り組みにより判明したことは下記の通りであり、3kg 未満の小型電気機器について真空加熱分離装置により継続的に無害化処理することが可能であることを確認しております。

なお本処理結果については、学識者で構成される処理事業検討委員会北九州 PCB 処理事業部会でも報告し、継続的に処理することについて承認されています。

記

1) PCB 含有回収油の性状確認

オイルシャワー油による PCB 回収は高圧コンデンサーと同様可能であり、その回収量は投入重量の約 20%程度と、高圧コンデンサーに比べて割合は低いことを確認しました。併せて閉塞性の確認、酸価の分析を行い、問題ないことを確認しました。

2) 回収された廃 PCB 油の液処理（脱塩素化分解処理）

無害化処理に係るトリータビリティ試験の結果、通常処理条件（SD 剤投入量、反応時間等）で無害化出来ることを確認できました。実機でも処理を行い、処理後の反応液及び固形残渣を分析して、いずれも無害化を確認しました。

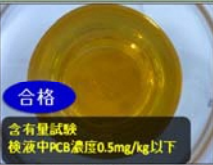


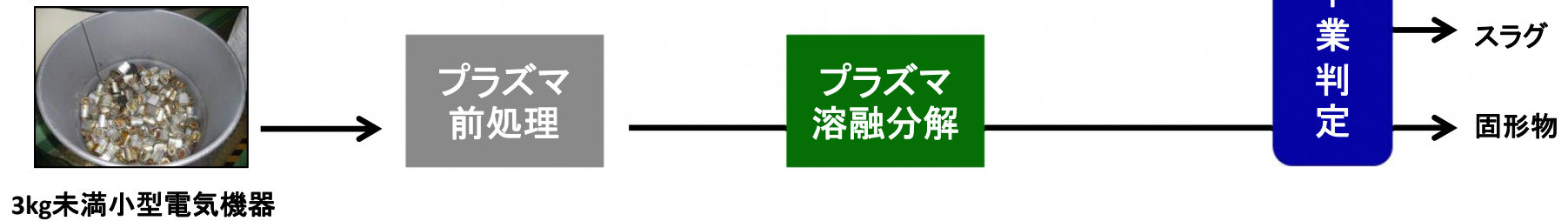
検体	性状	
反応液		
固形残渣		

図 1 3kg 未満の小型電気機器から回収した廃 PCB 油の処理後の性状

変更前



変更後

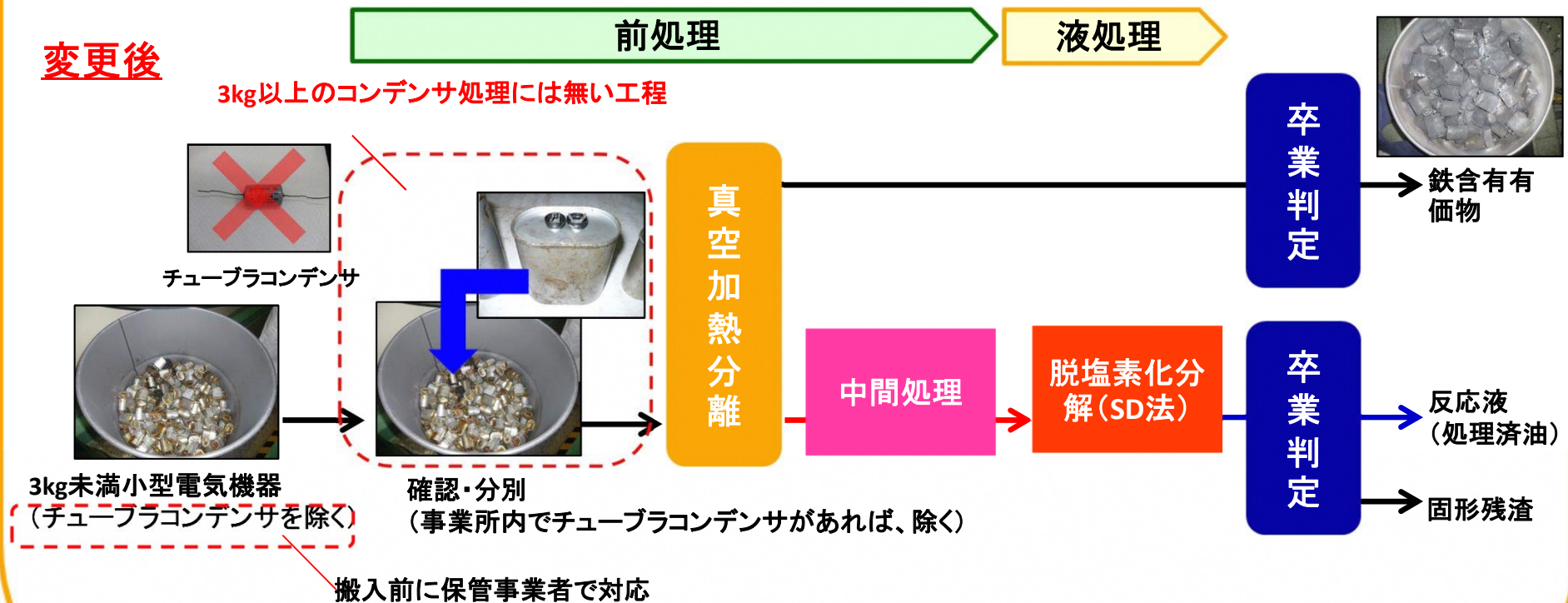


図-3 3kg未満小型電気機器処理の流れ